

第2章

快適に生活していただくための注意点…その7

■ ■ ■ 結露対策 ■ ■ ■

結露を生じさせないための工夫をしましょう

まんべんなく暖房し、南側と北側の部屋の温度差を小さくします。

南側にある居間などだけを暖房していると、暖房していない北側の冷たい部屋が低温高湿になり、結露が生じやすくなります。

押入れを閉めきらないようにしましょう

押入れは閉めきらないで少し暖かい空気が入るようにします。

また、少し隙間のできるようにもものを入れたり、下にすのこを敷くなどして換気を図ります。

お部屋の換気に心掛けましょう

換気口や空調機器を使用する他、定期的に窓を開けて自然の換気を行ないます。

！ 結露の原因になりますので、ポータブルストーブのご使用はご遠慮ください。

窓の結露対策

窓の結露の仕組み

窓ガラスの結露発生は、窓の室内面と室内の温度差、それから部屋の水蒸気濃度によって決まります。

空気中に含むことのできる水蒸気量は温度の低下と共に少なくなります。

湿度とはある温度での空気中の水蒸気含有量限度に対し、実際どのくらい水蒸気が含まれているかの比率をあらわすもので、

同じ水蒸気量でも、温度が低くなるほど分母である水蒸気含有量限度は低下して、湿度が高くなります。

$$\text{湿度} = \frac{\text{実際の水蒸気含有量}}{\text{水蒸気含有量限度}}$$

結露は室内の温かい空気が冷たい窓表面に触れることで、空気が冷やされ、同時に水蒸気含有量限度も低下するため限度を超えて空気中にとどまれなくなった水蒸気が窓表面に水滴としてあらわれます。

空気中の湿度が低ければ、温度差が激しくて水蒸気含有量限度が一気に低下しても限度内におさまリ、結露は発生しません。

また窓と室内との温度差自体が小さければ水蒸気含有量限度もそれほど変化しないのでこれまた結露発生を抑えることが出来ます。

結露発生には温度差と湿度という二つの点をどうコントロールするかがポイントになります。

第2章

快適に生活していただくための注意点…その8

凍結対策

水道を凍結させないためには

冬は水道の凍結にご注意ください

特に注意!!

- ・外気温がマイナス4度以下になったとき。
- ・おやすみ前や、旅行などで家を留守にするなど、長時間水道を使用しないとき。
- ・「真冬日」(1日中外気温が氷点下の日)が続いたとき。
- ・12月から2月にかけて、水道の凍結事故が多発します。
- ・水道が凍結すると、水が出なくなるだけでなく、修理費用は入居者様のご負担となります。

※長期間不在にする場合は、台所・浴室・便器などの排水トラップに不凍液を入れると凍結防止になります。

水抜きの方法

水道のバルブが室内にあり 止水栓が1カ所のみの場合

以下の順番にて行ってください

1 止水栓を(給水栓)※写真1を最後まで閉める 電動式水抜き栓※写真2の場合は止スイッチを押す

- レバー式の場合は、レバーを配管に対してタテにひねる。
※物件により配管に対して水平にひねる場合もあります。

2 室内の水抜きをする。(瞬間湯沸器は除く)

- トイレのタンクの水を流し、便器とタンクに不凍液を入れる。
- 浴室の水とお湯の蛇口を全開にして、シャワーホースを浴槽の床に置く。(蛇口に水道栓がある場合は、必ず水道栓も開ける)
- キッチンの水とお湯を全開にする。
(蛇口に水道栓がある場合は、必ず水道栓も開ける)
- 洗面化粧台の水とお湯を全開にする。
(洗面化粧台のみで、蛇口に水抜き栓がある場合は必ずそれも開ける)
- 洗濯用蛇口の水とお湯を全開にする。
(給水ホースを必ず抜いてから蛇口を開けること)
- エアーカーン※写真3が付いている物件は、蛇口を開けて水道管に空気が入るようにすると、水が抜けやすくなります。

3 瞬間湯沸器の水抜きをする。(湯沸器本体に方法が記載されています)

※給湯器の電源はOFFにしないでください

4 配管に残った水が出終わった後、全ての蛇口・水抜き栓を閉める

特に注意!! ※瞬間湯沸器の水抜き栓が閉まっているか確認してください

※写真1【止水栓(給水栓)】



※写真2【電動式水抜き栓】



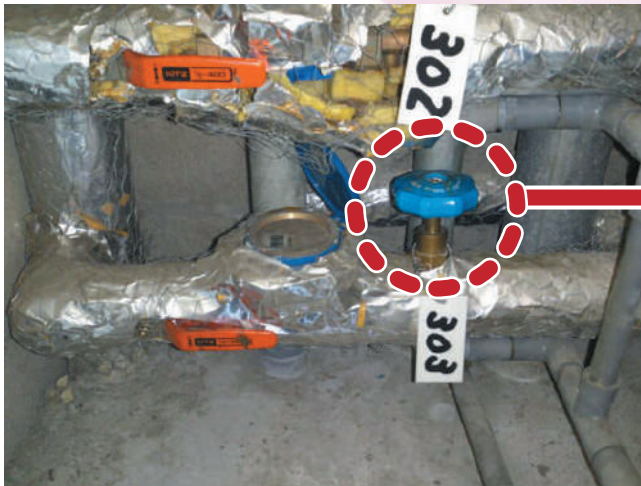
※写真3【エアーカーン】



第2章

快適に生活していただくための注意点…その9

水道のバルブがパイプスペースにあり 止水栓が1カ所の場合



※パイプスペースは各階の廊下の鉄扉の中にあります。

※パイプに号室表示の札がかかっていますので、必ずご自身のお部屋のパイプを操作してください。



他のパイプを操作すると大きなトラブルになる恐れがありますので、十分ご注意ください!!

以下の順番にて行ってください

- 1 止水栓を(給水栓)を最後まで閉める(青いバルブのみ)
- 2 室内の水抜きをする。(瞬間湯沸器は除く)
 - トイレのタンクの水を流し、便器とタンクに不凍液を入れる。
 - 浴室の水とお湯の蛇口を全開にして、シャワーホースを浴槽の床に置く。
(蛇口に水道栓がある場合は、必ず水道栓も開ける)
 - キッチンの水とお湯を全開にする。
(蛇口に水道栓がある場合は、必ず水道栓も開ける)
 - 洗面化粧台の水とお湯を全開にする
(洗面化粧台のみで、蛇口に水抜栓がある場合は必ずそれも開ける)
 - 洗濯用蛇口の水とお湯を全開にする
(給水ホースを必ず抜いてから蛇口を開けること)
- 3 瞬間湯沸器の水抜きをする。(湯沸器本体に方法が記載されています)
- 4 配管に残った水が出終わった後、全ての蛇口・水抜栓を閉める

※瞬間湯沸器の水抜栓が閉まっているか確認してください **特に注意!!**

第2章

快適に生活していただくための注意点…その10

水道のバルブがパイプスペースにあり 止水栓が2カ所の場合



※パイプスペースは各階の廊下の鉄扉の中にあります。

※パイプに号室表示の札がかかっていますので、必ずご自身のお部屋のパイプを操作してください。

以下の順番にて行ってください

- 1 止水栓(給水栓)を最後まで閉める
- 2 水抜栓を最後まで開ける
- 3 室内の水抜きをする。(瞬間湯沸器は除く)
 - トイレのタンクの水を流し、便器とタンクに不凍液を入れる。
 - 浴室の水とお湯の蛇口を全開にして、シャワーホースを浴槽の床に置く。
(蛇口に水道栓がある場合は、必ず水道栓も開ける)
 - キッチンの水とお湯を全開にする。
(蛇口に水道栓がある場合は、必ず水道栓も開ける)
 - 洗面化粧台の水とお湯を全開にする
(洗面化粧台のみで、蛇口に水抜栓がある場合は必ずそれも開ける)
 - 洗濯用蛇口の水とお湯を全開にする
(給水ホースを必ず抜いてから蛇口を開けること)
- 4 瞬間湯沸器の水抜きをする。(湯沸器本体に方法が記載されています)
- 5 蛇口に水抜きがついているものは、全て水抜きする
- 6 配管に残った水が出終わった後、全ての蛇口・水抜栓を閉める
 - ※瞬間湯沸器の水抜栓が閉まっているか確認してください **特に注意!!**
- 7 パイプスペースの水抜栓を最後まで閉める